

【工業系高校&モノづくり企業懇談会】

開催日：令和4年12月7日（水）

会場：石川ハイテク交流センター

参加者：ものづくり企業38名

高校18名（校長4名、教員13名、教育委員会1名）

----- 企業懇談会での主な意見（3グループ） -----

意見交換でのテーマⅠ：求人の際の生徒(保護者)へのアプローチ方法について

[企業からの質問]

Q1：生徒の希望者を募って、授業に差し支えない程度で説明会を設けることは可能か。

A1：ロングホーム等で入れ込もうと思えば全くできないことはないが、色々な取組みをやっている中で現状としてはなかなか難しい。

Q2：生徒は文字を読まないので、求人票と一緒にチラシで会社紹介動画用のQRコードを付けて配布することは可能か？

A2：可能。

Q3：生徒や保護者の、求人に対する見る目や温度差はどうか？

A3：生徒は休日や残業時間が重要視されており、基本給が多少低くても気にしない傾向が強い。保護者はネームバリュー重視。

Q4：企業のHPに、高校生の企業訪問や工場見学を受け入れる旨を書いておいたら、生徒は自由に来られるものなのか？

A4：採用選考に関わることはできない。学校はハローワークの出先機関のような扱いとなるため、斡旋しているだけ。例えばプライベートだとしても、生徒個人が行くことはおそらく難しい。学校を經由して、学校の目の届く範囲でのみ動く必要がある。

Q5：過去3年間の離職率や離職理由を学校側は把握しているのか？

A5：過去5年間、5年ごとに調査している（高校により違いあり）。

離職率は例年2～3%だったのが、最近は5%。待遇の悪さや人間関係を理由にやめている人より、コロナを契機に自分のやりたいことが見つかったことなどが離職の主な理由になってきている。

Q6：もともと機械が好きじゃないという新卒が少なくない。企業選びの時は、学校側はどういう風な指導等をされているのか。

A6：学校としても、機械や工業が好きでないのに機械関係の企業に行くという学生がいるのが悩みではある。

Q7：生徒が企業のホームページを見る機会はどのようなタイミングか？

A7-1：工場見学、インターンシップ・デュアルシステムなど、関連する企業のホームページは見るように指導している。

A7-2：就職を希望する生徒には3社まで希望を出してもらっており、その企業は調べるよう指導している。

A7-3：新型コロナウイルスの関係で企業説明会の対面が中止となった際は出展企業の動画を8社以上見るようしどうした。様々なイベントにエントリーいただくと見る機会となるのでは？

Q8：ホームページの更新を考えているが、鉄工所のイメージを払拭するため、アニメーションなどソフトなイメージにしようと思っているが、それが効果的なのかそうではないのか気になっている。

A8：アニメーションを使いソフトなイメージにするのも新しい考え方だと感じた。

1度見た企業のホームページを再度に見た際に更新されていなかったら以降見る機会は無いと思われる。更新頻度も検討されてはどうか？

Q9：企業を知ってもらうには？

A9：工場見学ツアー（1日数社）を実施していただくのが良いのでは？

近年、電気工業組合や建設業協会が工場・現場見学、講演、面接前の学校での練習に社員を派遣してくれるなど積極的に受けてくれる。

[高校からの質問]

Q1：企業として土日に工場見学等の受入れはできるか？

A1：企業によると思うが、コロナ前の土曜日稼働日に工場見学を5月頃に実施していた。

[その他の主な意見（学校側）]

①今年、小松ドームで合同説明会を実施。加賀商工会議所も実施している。

今後、鉄工機電協会主催で合同説明会を学校で実施する場合、時間を設けることは可能。

②子供達はSNSで繋がっているため、先輩が行っている会社は有利（＝先輩がいる企業にばかり目が行く）。

③最終的には生徒と保護者で決めるので、どれが有効的かというのは難しい。

④インターンシップやデュアルシステム等で現場を見ることは大事。

⑤今年には特に生徒の進学傾向が強くなってきている中で、高卒で就職をする魅力、利点を企業側にアピールして欲しい。

⑥教員が知っている企業は生徒に説明しやすいため、工場見学等受け入れていただきたい。

⑦新型コロナウイルスでインターン等が出来なくなり知らない企業に就職をすることが怖い。

⑧実体験すると生徒はガラッと変わり、そういった場はすごく大事。

⑨求人票を紙からデジタル化して、学校だけでなく、家でも見られるようにした。また、2年生も見られるようにした。あわせて、保護者も見られるようになったため、保護者自身が企業研究をしてくれるようになった。求人票が見える化したため、保護者や学生の見目が肥えてきている。

今後は求人票を紙からデジタル化するのではなく、そもそもデジタルデータとして欲しい。

- ⑩どんな仕事をしたいかだけでなく、石川県にどういう企業や業界があるのかを知る機会を作っていかなければいけないと痛感している。(=キャリア教育)
- ⑪例年 300 社ほど会社の代表者等から相談がある。代表者自らの人間性を見て、信頼できる人かどうかを判断して生徒に説明したりはしている。代表者の熱意が大事だと思う。
- ⑫最近の生徒は就職先を選ぶ際、インターンシップ等で訪問した企業のイメージが影響している。例えば「会社がきれいだった」、「指導してくれた社員が話しやすかった。やさしかった」など。
- ⑬面接に行く元気な子しか採用してもらえない。中には資格等コツコツやれる子もいる。採用する方も面接だけでその子の中身を見抜くことは難しいことは分かっているが、その子その子に応じた目で見て欲しい。

[その他の主な意見（企業側）]

- ①高校生のうちに就職先も含め進路を決めるのは難しい。大学に進学できるなら進学をして、更に勉強をしたり、色々な経験をした方が良いと思う一方で、何のために研究等しているか分からなくなり、やる気をなくしてしまった学生もいると聞く。それを考えると自分で学ぶ姿勢が身についている工業高校では、高卒後就職することによりすぐに活躍できるのではないか。
- ②人材不足の現在、自分の希望する企業に入社するチャンスであり、この有利な時期に就職することがメリットだと思う。
- ③インターンシップではものづくりの凄さを実感してもらい、ものづくりの格好良さを分かってもらう為に企業側が教えることが出来れば大学に進学してもこの業界に戻ってきてくれる。
- ④小松商工会議所等が実施している一般の方を対象とした「モノづくり現場見学」のプログラムに参加し、好評だった。来年も参加予定。
- ⑤求人サイトのジョブトラスト(全国版)に掲載。高校生にも見られるので活用していただきたい。
- ⑥求人票には載らない情報を伝えたくて、工場見学を頻繁に行っている。(会社ホームページにQRコードを載せ、オンライン工場見学も実施)
- ⑦小学生向けに配布されている「おしごとノート」に会社情報を掲載している。
- ⑧過去に動画を作成したが中途採用者には効果的だった。その後、動画等の更新ができていないため、今後の課題かと思っている。
- ⑨教員に企業を知ってもらいたいので多くの工場見学をしてもらいたい。

意見交換でのテーマⅡ：今後の工業高校に求める学習について

[企業側より要望]

- ①プレゼン力をあげて欲しい。
→現在、PC 使って授業の中で発表の場を設けているので、プレゼン力はついている。
ただ、性格によって違いがあり、得意不得意はあるのでその子にあった指導をしている。

- ②各々が自己分析する授業があったら良い、または既にあるのか？
→全ての学校でキャリアパスポートを作成し、自己分析をしている。
- ③明確な目標や夢がない生徒が多いのでは？具体的な夢を語るような授業を作って欲しい。
- ④基本的な読み書きや計算。正しい日本語が使えない、マナーも知らない人が多い。手紙の書き方も知らない。
→(企業より)郵便の書き方を知らないのはおそらく年賀状などを書く機会が減ってきているから。それは、子供達のせいではなく、社会全体がそうなっているからであり、ある意味仕方がないこと。
- ⑤単語での会話が多く、自分の意見を正確に迅速に伝える能力が乏しい。
→(企業より)最近のZ世代の特徴としては、一つのセンテンスの中に問いがいくつもあるのが嫌いなようだ。
- ⑥コミュニケーション能力。ビジネスに使うコミュニケーション能力は会社で教えるべき。それ以外のことは学校で教えてほしい。親世代ですらマナーがなっていない人も多いため、学校側でできることはしてもらえるとありがたい。
- ⑦高校のうちに、悪い意味ではなく、夢は諦めさせてほしい。踏ん切りをつけてほしい。夢を追うのは高校まで。就職してから夢をまた追いかけてしようとして辞める新卒が増えてきている。
- ⑧ネームバリューだけで判断するような見方はしないように指導してもらいたい。
- ⑨中学校に対してもっと工業高校のアピールをしてほしい。工場見学等の協力は是非声をかけて欲しい。
- ⑩最近の新卒は「働くこと」「生きること」に対して何も感じない人が多い。ただ漠然と働く人が多く、何を考えているかも分からず、最終的に辞めてしまうケースが多い。自分の思っていることを率直に言える子になってほしい。
- ⑪話が一方通行になるのではなく、ディスカッションができるスキルを身に付けてもらいたいと思う。
- ⑫工業系の卒業生は即戦力になってくれているがその後の伸びしろは個人による。工業高校出身者は資格があるからそれがおごりになる場合もある。
→工業高校でも資格取得を重点とする時期があり、それで自分はできるという勘違いをしている生徒もいたため、最近はそれでできるということではないということも指導している。
- ⑬工業系高校の魅力はやはり資格取得、これからも技能検定など資格取得を勧めてほしい。
- ⑭製品をつくるうえで、様々な企業が関わっていることを知ってもらうため「業界地図」のようなもので学習してもらえると分かりやすいのでは？
- ⑮学校の学習は正解・不正解の選択だが、社会に出ると答えは1つではない。もしかしたら今日の答えが明日は違うかもしれない。そのため「自分で考える」教育をしていただきたい。
- ⑯高校生の間に機械に触れる機会を増やしていただきたい。
- ⑰コロナの影響で今はできていないかもしれないが、他の人と一緒に何かを創り上げる、行動するなどをしてもらいたいと思う。

意見交換でのテーマⅢ：その他フリートーク

[学校側]

- ①中学校でのキャリア教育が大事。中学校の学力や偏差値だけで進路を決めてしまう。中学校の生徒や先生に対して工業を知ってもらう機会を増やすべき。
- ②企業ガイダンスは、どの企業を選ぶかはその業者が決める。学校側では決められない。
- ③企業に対して、若手の方が「言える環境」を作ってほしい。形だけの OJT だけではなく、本当に相談できるような環境を構築してもらうことが、離職率を下げられるのかもしれない。「会社にはキレイな理由を作って辞めたけど、実の理由は人間関係でした。」といってくる卒業生も少なくない。
- ④最近の悩みは受験倍率の低迷。ほとんどの工業系高校が倍率 1 を下回っており危機感をもっている。校舎がキレイ、設備も新しい、制服が可愛い、部活が盛んなどの理由から私立に流れてしまっているのも原因の 1 つ。
- ⑤中学へ訪問し、話を聞くと「中学を卒業し、その 3 年後に働くイメージを持っていない子供が多い」と、言った教員もいた。
- ⑥工業高校へ入学する生徒のうち、モノづくりが好きで入学する生徒は少なく、将来モノづくりの仕事に就こうという意識も少ないと感じている。
- ⑦今の 3 年生は高校入学時、新型コロナウイルスの感染で 6 月まで登校できなかった。印象としておとなしい生徒が多くなった。
朝礼前や休み時間など読書をする生徒が多くコロナ前には見られなかった光景。対面で言葉を交わす機会が少なかったからか、スマホの代わりに読書をしている感じ。

[企業側]

- ①工業系高校への進学率を高めるためには学校だけでは難しいのではないかと、思う。だからと言って特効薬があるか？と言われると難しいところ。
- ②受験倍率に関しては、高校の先生だけの問題ではないと感じている。小学生の頃から石川県のモノづくりを見せていくようなキャリア教育が必要なのではないかと、考えている。
- ③たまたまだが、今年、子供の付き添いで工業高校の体験入学に行った際、先生は楽しそうに教えているのに生徒が楽しそうに感じられなかった。やらされている感があり、もったいないと感じた。企業でも誇りを持って、楽しそうに仕事ができるようにしていかないといけないと改めて思った。
- ④今年、初めてデュアルシステムの受入れをした。普通科より工業科の方がしっかりしている印象だった。
- ⑤中学生が工業高校を選択しないについて、逆に工業高校を選んだ理由を知りたい。どれだけキレイになっているとはいえ 3 K のイメージは残ったまま。中学生に興味を持ってもらう、楽しいところもある。ということを発信し続けることが大事だと思う。